

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200284		
法人名	社会福祉法人つつじ会		
事業所名	グループホームふれあい	ユニット名	: 一路
所在地	宮城県石巻市蛇田字小斎1番地1		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 23 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様・ご家族様が安心して生活して頂けるような関わりを心掛け、入居者様一人ひとりの思いに寄り添い、充実した生活を送って頂けるような支援を目指しています。ご家族様が来所された際には近況報告を行い、入居者様のご様子を詳細にお伝えしています。また、感染対策を行いながら対面での面会やご家族様との外出(家族行事への参加)も実施しています。活動面では、入居者様の状態に合わせて散歩や、皆様で取組める運動を取入れたアクティビティ等を様々な企画し心身の活性に努めています。また入居者の要望や思いに心を傾け可能な限り実現できるよう努めています。健康面については、できるだけ在宅から継続している馴染の医師に依頼し、診て頂きながら状態の変化に応じ必要な支援を受けられるよう医療との連携に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三陸道、石巻河南インターから北西2kmの閑静な住宅地の中に、平屋建て2ユニットのホームがある。職員は入居者や家族の思いを尊重し支援しており、家族は信頼し、入居者は職員に感謝の気持ちを伝えている。ホームはコロナ感染対策を取りながら外出や面会に努めている。日和山や奥松島にドライブに行った。入居者は広い畑で土いじりして寛いだり、リビングで賑やかなレクリエーションやマイペースの生活を楽しんでいる。目標達成計画の「全職員が研修に参加出来、定期的に勉強会を実施する」は、「リスクマネジメント」などの外部研修やオンライン研修に参加し、目標を達成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームふれあい )「ユニット名 一路 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員入口・事務所・各ユニットに掲示し、ている。又、委員会や勉強会でも理念に触れる場を設け理念について振り返る機会を持つようにしている。	開設時から「笑顔で、寄り添い地域と共に」の理念を継承し、4半期ごとに振り返りを行っている。ドライブに出掛けたり、皆とのおしゃべりやマイペースの生活を楽しんでいる。近所の人たちが立ち寄り、畑の手入れをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により地域住民との交流は図れているとは言えないが、地域の方が育てている桜の木の前で花見散歩をしたり、近隣の方から花や野菜を頂いたり、草取りの協力を頂いている。	区長から町内の行事等の情報を入手する。高校生の体験学習があった。ホームから法人の特養に移った人に会いに行くことがある。コロナ禍の前のように、広い駐車場で地域住民参加のイベント開催を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の入居申込みされているご家族からの電話や来所にて相談対応行っている。見学や入居申込みにいらした方にも施設での取組等を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動状況や前年度の事業報告・並びに今年度の事業計画等を報告しつつ、委員の方々からアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。	メンバーは市職員や地域住民代表(区長)、入居者、家族、職員である。外出や面会の支援状況の話し合いや避難訓練の実施の報告があった。「避難訓練時に一緒に参加し、地域交流をする」の提案があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の活動や取り組みをはじめ、事業所内での新型コロナウイルス感染症の罹患状況等についても報告しつつアドバイスを頂き、運営推進会議でのご意見を取り入れている。	他県在住の両親の入居について市に相談した。ホームでコロナ感染が発生し、県石巻保健所や市から、防護服や抗原キット等の支援があり、コロナ発生時の業務継続計画についてのアドバイスがあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をせず、入居者が外に出る場合は無理に引き留めるようなことはせず、体調に留意しながら一緒に行動をし、見守りを行っている。また委員会・内部研修を定期的に行っている。	センサーマットの使用について、身体拘束に当たらないか話し合っている。「待って下さい」と言わざるを得ない時は「～が終わるまで待って下さい」と優しい口調で説明を加えるよう留意している。委員会の資料は欠席者も確認するよう回覧している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様との関わりの中で、困った事があればその都度、報告・連絡・相談し会議等の中で話し合う場を設け防止に努め、1人の職員が抱え込む事のないように注意し、虐待防止の委員会・内部研修を行っている。	「職員同士で盛り上がって笑ったりすると、入居者が『私のことでは』と不安に感じることもある」等話し、振り返りを行っている。不適切なケアに気が付いた時は、その場で注意すると共に、ミーティングで注意喚起する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会はまだまだ少なく、活用する機会が現状ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を基に説明を行い同意を得ている。契約内容に変更が生じた場合も、書面にて説明し了承を頂いている。その他に、ご家族様より意見を頂いた場合はその都度対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会をはじめ来所時やケアプラン作成時・担当者会議の際に入居者様の状態を報告し、意見要望を聞いている。また意見・要望があった場合には法人本部とも連携をとり反映するように努めている。	面会は玄関で15分としており、状況を見て制限を緩和していく。外出については、墓参りや法事、親族との会合に送り出している。毎月計画のドライブの他、買い物等に出ている。湯たんぽ等を持って来る家族もいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や朝の申し送りにて職員から意見や提案を出してもらい、出来ることから計画・実行をしている。また相談があった場合には時間を設けている。	オムツの人がリハパンになり、布パンになるようケアの方法を職員間で共有している。ケアを重視すると共に業務を見直し、残業を出さないよう努めている。希望休や有給休暇の要望を入れたシフトにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与は職員給与等支給規則に準じ、職員の労働時間は職員就業に準じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響により外部研修への参加が難しかったが、少しずつ外部研修にも参加できる状況になってきているが、オンライン研修・内部研修の比率が高い状況である。また勉強会を行うようにしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員数が少なくネットワークづくりをする機会を設けることが難しく、サービス向上を指せる取り組みは行っていない。	他ホームの管理者と交流し、管理者業務について情報交換したり、入居希望者の紹介等をしている。県石巻保健所の講師が来て感染症に関する研修を受けたり、社会保険労務士による経営者セミナーに参加している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査や、これまで関わってきた関係者からの情報提供や、ご家族様に記入して頂いたバックグラウンドアセスメントシートを基に、関わる人々と生活していく場所に慣れて頂きながら信頼関係を築くことに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に暫定ケアプラン、もしくは関係者間で十分な話し合いの場を持てた場合にはケアプランを交付し、本人と家族等に必要な支援を常に検討していくよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に暫定ケアプラン、もしくは関係者間で十分な話し合いの場を持てた場合にはケアプランを交付し、本人と家族等に必要な支援を常に検討していくよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃・家事等、共に行い時間の共有を心掛けている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様・ご家族様・職員間での信頼関係を築きつつ、入居者様とご家族様が面会や外出の機会等を通し絆を大切にしながら、共に入居者様と一緒に支えていけるよう関係性の構築に努めている。	
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様・ご家族様からの情報を基に馴染みの関係性(理美容室等や線香あげや墓参り等)が途切れぬよう、できる限り要望に応え、ご家族様に支援の協力を頂きながら事業所でも可能な限り対応に努めている。	墓参りや法事、身内の集まりへの外出に応じている。かかりつけ病院が心安らぐ場となっている。馴染みの美容師が理美容に来訪する。職員と行きつけの店にシャンプー等買い物に行っている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に配慮しながら共有スペースでのテーブル席を考慮し、入居者様が孤立せず関係性を築き保てるよう職員が必要時に仲介支援している。またレクリエーションや行事等で入居者様同士の交流を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には必要に応じて支援している。 また退居時には、当事業所でお力添えできることがあれば、お気軽にお申し付けくださいとお声掛けしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりがどのような暮らしを望んでいるのか、希望や意向を丁寧に聞き取りを行うことに努めている。普段からのコミュニケーションをとるなかで、本人様の想いが確認できるように努めている。	にこやかに視線を合わせて会話し、食べたいものや行きたい場所等の思いを汲み取っている。本人の背景を活かし支援すると共に、その時、その人のペースに合わせ支援する。畑の水やりや草取りを楽しむ人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査や、ご家族様、ご本人様からの情報を基に、馴染の暮らし方や生活環境をホームの暮らしに反映し、継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅での生活を基盤とし、ご自身で決めたり、できる事は自身で行って頂くよう努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりの情報を共有し統一したケアで親身に関わる為、担当者会議やユニット会議で話し合いプランに反映している。内容はご家族様にも説明を行っている他、状態が変化した時にも随時見直ししている。	担当職員がモニタリングし、他の職員の意見も入れ、計画作成担当者が計画書を作る。歩行維持の希望に廊下等を歩く計画で支援し、レクに参加出来にくくなった人に、手を添えて参加を促すよう計画し、支援する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目ごとに記録を付け、職員間での情報の共有、毎日の申し送りでの話し合いの他、ユニット会議や全体会議でも話し合いの場を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望のあったものに関しては検討し、ニーズの充足に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商業施設を利用しての買い物や馴染みの理美容室へ出掛くこと等、感染症対策をしながら行っている。近隣の散歩や花見等の外出行事やご家族様との外出も感染状況の確認と対策を行いながら状況に応じて対応している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅から継続している馴染みの医師に依頼している。	全員がかかりつけ医受診であり、その中の6人は訪問診療である。通院に家族が付き添い、医師にバイタル表や生活状況を提供する。職員が付き添うことがある。訪問歯科が毎週、歯科衛生士が月1回訪問する。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働は行っておらず、入居者様に異変が見られた場合には、状態に応じて主治医や、ご家族様に報告・連絡・相談し、主治医の指示に従い通院等行っている。緊急時には救急搬送の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については双方サマリーを準備し、双方向良好な関係性が保てるよう支援する他、必要時等には電話連絡にて対応している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期介護に関しては導入しておらず、ご家族様へは現時点でできること・できないことをお伝えし、同意を得ながら支援している。	「施設入居中の危険性・容態急変に対する説明書」により、家族に説明している。状況の変化に応じて繰り返し話し合いをしており、重度化した場合、医師の説明を受け家族と相談し、医療を受けるか施設を変えるかホームの生活を続けるか相談する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備しているが全体として訓練まで行っていない。同法人事業所主催での救急救命講習に、可能な限り多くの職員が研修参加するようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震想定訓練の他、水害や原発防災訓練も実施しているが、地域との協力体制を築くところには至っていない。	夜間想定を含め避難訓練を3回実施しており、消防署西分署の立ち合いもしている。「火元ドアは閉め火災区画遮断し、火元に近い人から優先的に避難」「避難確認後の部屋にプレートを置くは有効」等の講評があった。	避難訓練に地域住民が参加していない。「避難訓練時に一緒に参加し地域交流」や「法人の夜勤者の応援体制の検討」等の話が出ており、実現に向けた働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定と尊厳を大切にし、相手の立場に立ち、自尊心を傷つけないような対応を心掛けている。	「さん」付けで呼び、「友達として接して欲しい」の要望で「ちゃん」と呼んでいる人がいる。入浴で同性介助を望む人に応じている。トイレを失敗した人に「洋服変えに行きましょう」等、周囲に気付かれないよう居室に誘う。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様を主体と考え、普段の会話の中から希望・要望などを聞き、出来るだけ想いに添えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを大まかに決めており日々、入居者様の状況に合わせて時間が流れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみに関しても常に気を付け、乱れている場合はさりげなく声掛けを行い、必要時には促しや必要な個所の一部介助を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を提供したり、食事の準備は残存機能に合わせて、準備・調理・配膳・片付けと役割があり、協力して実施している。	献立は法人の管理栄養士が作り、食材は配食業者を利用している。ご飯とみそ汁は作る。誕生日はおやつにケーキで祝う。好みの食べ物は、おはぎやラーメン、焼きいもで、行事食に海鮮丼やちらし寿司を楽しむ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成しており、栄養バランスは保たれている。必要時には栄養補助食品を提供し、食事形態に関してもその方に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより自立または一部介助にて行って頂いており、口腔ケア物品の清潔にも務めている。またできる限り毎日、昼食前に口腔体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、排泄パターンの把握に努めている。誘導時間もご本人様の状況に合わせて行っている。	自立の人は7人で、他は声掛けトイレに誘導している。落ち着かない時等のトイレの合図を見逃さずトイレに誘う。夜間だけオムツの人が3人である。車イスでオムツだった人がトイレで排泄できるよう改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが困難な方は雇い付けの医師と相談し下剤を服薬して頂いているが、散歩や腹部マッサージ、水分を多めに摂取して頂き便秘の予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回は入浴出来る様、声掛けし対応に努めている。また入浴の気分がのらない場合は無理強いをせず翌日に入ってもらっている。	週2回入っている。同性介助や湯温の希望に応じている。入浴を拒む人に自然な会話から「洋服着替えましょう」と誘う。入浴剤やゆず湯で香りを楽しむ。2人介助の人がいる。脱衣所はヒーターで暖かくしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごされている方がほとんどで、夜間帯は良眠されている。状況により日中も休める時間帯を確保し居室で過ごされている時間は、定期的に巡視し、掛物調整や室温にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援チェック表を用いて飲み忘れ防止を図っている。また薬剤の変更があった際にはケース記録と申し送りをし、薬剤表を個人ファイルにとじ、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の定着が難しい入居者様へのアプローチが課題となっている。嗜好品等の購入に関しては自ら選んで頂き、可能であれば精算も行っている。毎日の活動も好みの物を選んで行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩、状況に応じて馴染みの場所へドライブをしたりと感染対策をしながら外出を行っている。またご家族様にも協力して頂き、馴染みの雇い付け医への通院の依頼や、墓参りなどの家族行事で外出を行った。	天気のいい日は敷地内や周辺道路を車イスの人も散歩する。日用品の買い物に出掛けている。春に日和山の花見や秋の奥松島等にドライブする。日和大橋や渡波公園、津波復興祈念公園に出掛け、店で好きなものを食べる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金庫で保管管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合に電話をお貸したり、本人様が入居時に持参された携帯電話で自由にご家族様と連絡のやりとりをされている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や時間帯により照明・室温調整をしたり季節感のある装飾を行っている。	リビングに柿や栗の折り紙の貼り絵を飾っている。手作りのカレンダーがあり、見やすいところに時計がある。広い畑に出て、水遣りや草取りをし、収穫を楽しむ。ユニット間は通り抜けが出来、自由に交流出来る。入居者はリビングに集まり談笑し楽しく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は常に気の合う者同士で過ごせるよう配慮しているが、一人になれる場所がないため、一人になりたい場合には自室で過ごされている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に安心して頂けるよう馴染みの物や、使い慣れた物を持参して頂き使用している。	ベッドやチェスト、エアコン、カーテンが備え付けで、居室は掃き出し窓の南向きで明るい。家族の写真を飾り、椅子やテレビ等を持って来ている。位牌や遺影を持って来ている人もおり、自分の居室として使っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	管内はバリアフリーで廊下や浴室、トイレにも手すりがついている。歩行運動や体操も行い、状態を維持できるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200284		
法人名	社会福祉法人つつじ会		
事業所名	グループホームふれあい	ユニット名	平安
所在地	宮城県石巻市蛇田字小斎1番地1		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 23 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様・ご家族様が安心して生活して頂けるような関わりを心掛け、入居者様一人ひとりの思いに寄り添い、充実した生活を送って頂けるような支援を目指しています。ご家族様が来所された際には近況報告を行い、入居者様のご様子を詳細にお伝えしています。また、感染対策を行いながら対面での面会やご家族様との外出(家族行事への参加)も実施しています。活動面では、入居者様の状態に合わせて散歩や、皆様で取組める運動を取入れたアクティビティ等を様々な企画し心身の活性に努めています。また入居者の要望や思いに心を傾け可能な限り実現できるよう努めています。健康面については、できるだけ在宅から継続している馴染の医師に依頼し、診て頂きながら状態の変化に応じ必要な支援を受けられるよう医療との連携に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三陸道、石巻河南インターから北西2kmの閑静な住宅地の中に、平屋建て2ユニットのホームがある。職員は入居者や家族の思いを尊重し支援しており、家族は信頼し、入居者は職員に感謝の気持ちを伝えている。ホームはコロナ感染対策を取りながら外出や面会に努めている。日和山や奥松島にドライブに行った。入居者は広い畑で土いじりして寛いだり、リビングで賑やかなレクリエーションやマイペースの生活を楽しんでいる。目標達成計画の「全職員が研修に参加出来、定期的に勉強会を実施する」は、「リスクマネジメント」などの外部研修やオンライン研修に参加し、目標を達成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームふれあい )「ユニット名 平安 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員入口・事務所・各ユニットに掲示し、ている。又、委員会や勉強会でも理念に触れる場を設け理念について振り返る機会を持つようにしている。	開設時から「笑顔で、寄り添い地域と共に」の理念を継承し、4半期ごとに振り返りを行っている。ドライブに出掛けたり、皆とのおしゃべりやマイペースの生活を楽しんでいる。近所の人たちが立ち寄り、畑の手入れをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの影響により地域住民との交流は図れているとは言えないが、地域の方が育てている桜の木の前で花見散歩をしたり、近隣の方から花や野菜を頂いたり、草取りの協力を頂いている。	区長から町内の行事等の情報を入手する。高校生の体験学習があった。ホームから法人の特養に移った人に会いに行くことがある。コロナ禍の前のように、広い駐車場で地域住民参加のイベント開催を検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の入居申込みされているご家族からの電話や来所にて相談対応行っている。見学や入居申込みにいらした方にも施設での取組等を紹介している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動状況や前年度の事業報告・並びに今年度の事業計画等を報告しつつ、委員の方々からアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。	メンバーは市職員や地域住民代表(区長)、入居者、家族、職員である。外出や面会の支援状況の話し合いや避難訓練の実施の報告があった。「避難訓練時に一緒に参加し、地域交流をする」の提案があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の活動や取り組みをはじめ、事業所内での新型コロナウイルス感染症の罹患状況等についても報告しつつアドバイスを頂き、運営推進会議でのご意見を取り入れている。	他県在住の両親の入居について市に相談した。ホームでコロナ感染が発生し、県石巻保健所や市から、防護服や抗原キット等の支援があり、コロナ発生時の業務継続計画についてのアドバイスがあった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をせず、入居者が外に出る場合は無理に引き留めるようなことはせず、体調に留意しながら一緒に行動をし、見守りを行っている。また委員会・内部研修を定期的に行っている。	センサーマットの使用について、身体拘束に当たらないか話し合っている。「待って下さい」と言わざるを得ない時は「～が終わるまで待って下さい」と優しい口調で説明を加えるよう留意している。委員会の資料は欠席者も確認するよう回覧している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様との関わりの中で、困った事があればその都度、報告・連絡・相談し会議等の中で話し合う場を設け防止に努め、1人の職員が抱え込む事のないように注意し、虐待防止の委員会・内部研修を行っている。	「職員同士で盛り上がって笑ったりすると、入居者が『私のことでは』と不安に感じることもある」等話し、振り返りを行っている。不適切なケアに気が付いた時は、その場で注意すると共に、ミーティングで注意喚起する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会はまだまだ少なく、活用する機会が現状ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を基に説明を行い同意を得ている。契約内容に変更が生じた場合も、書面にて説明し了承を頂いている。その他に、ご家族様より意見を頂いた場合はその都度対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会をはじめ来所時やケアプラン作成時・担当者会議の際に入居者様の状態を報告し、意見要望を聞いている。また意見・要望があった場合には法人本部とも連携をとり反映するように努めている。	面会は玄関で15分としており、状況を見て制限を緩和していく。外出については、墓参りや法事、親族との会合に送り出している。毎月計画のドライブの他、買い物等に出ている。湯たんぽ等を持って来る家族もいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や朝の申し送りにて職員から意見や提案を出してもらい、出来ることから計画・実行をしている。また相談があった場合には時間を設けている。	オムツの人がリハパンになり、布パンになるようケアの方法を職員間で共有している。ケアを重視すると共に業務を見直し、残業を出さないよう努めている。希望休や有給休暇の要望を入れたシフトにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与は職員給与等支給規則に準じ、職員の労働時間は職員就業に準じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響により外部研修への参加が難しかったが、少しずつ外部研修にも参加できる状況になってきているが、オンライン研修・内部研修の比率が高い状況である。また勉強会を行うようにしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員数が少なくネットワークづくりをする機会を設けることが難しく、サービス向上を指せる取り組みは行っていない。	他ホームの管理者と交流し、管理者業務について情報交換したり、入居希望者の紹介等をしている。県石巻保健所の講師が来て感染症に関する研修を受けたり、社会保険労務士による経営者セミナーに参加している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査や、これまで関わってきた関係者からの情報提供や、ご家族様に記入して頂いたバックグラウンドアセスメントシートを基に、関わる人々と生活していく場所に慣れて頂きながら信頼関係を築くことに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に暫定ケアプラン、もしくは関係者間で十分な話し合いの場を持てた場合にはケアプランを交付し、本人と家族等に必要な支援を常に検討していくよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に暫定ケアプラン、もしくは関係者間で十分な話し合いの場を持てた場合にはケアプランを交付し、本人と家族等に必要な支援を常に検討していくよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃・家事等、共に行い時間の共有を心掛けている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様・ご家族様・職員間での信頼関係を築きつつ、入居者様とご家族様が面会や外出の機会等を通し絆を大切にしながら、共に入居者様と一緒に支えていけるよう関係性の構築に努めている。	
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様・ご家族様からの情報を基に馴染みの関係性(理美容室等や線香あげや墓参り等)が途切れぬよう、できる限り要望に応え、ご家族様に支援の協力を頂きながら事業所でも可能な限り対応に努めている。	墓参りや法事、身内の集まりへの外出に応じている。かかりつけ病院が心安らぐ場となっている。馴染みの美容師が理美容に来訪する。職員と行きつけの店にシャンプー等買い物に行っている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に配慮しながら共有スペースでのテーブル席を考慮し、入居者様が孤立せず関係性を築き保てるよう職員が必要時に仲介支援している。またレクリエーションや行事等で入居者様同士の交流を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には必要に応じて支援している。また退居時には、当事業所でお力添えできることがあれば、お気軽にお申し付けくださいとお声掛けしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりがどのような暮らしを望んでいるのか、希望や意向を丁寧に聞き取りを行うことに努めている。普段からのコミュニケーションをとるなかで、本人様の想いが確認できるように努めている。	にこやかに視線を合わせて会話し、食べたいものや行きたい場所等の思いを汲み取っている。本人の背景を活かし支援すると共に、その時、その人のペースに合わせ支援する。畑の水やりや草取りを楽しむ人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査や、ご家族様、ご本人様からの情報を基に、馴染の暮らし方や生活環境をホームの暮らしに反映し、継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅での生活を基盤とし、ご自身で決めたり、できる事は自身で行って頂くよう努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりの情報を共有し統一したケアで親身に関わる為、担当者会議やユニット会議で話し合いプランに反映している。内容はご家族様にも説明を行っている他、状態が変化した時にも随時見直ししている。	担当職員がモニタリングし、他の職員の意見も入れ、計画作成担当者が計画書を作る。歩行維持の希望に廊下等を歩く計画で支援し、レクに参加出来にくくなった人に、手を添えて参加を促すよう計画し、支援する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目ごとに記録を付け、職員間での情報の共有、毎日の申し送りでの話し合いの他、ユニット会議や全体会議でも話し合いの場を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望のあったものに関しては検討し、ニーズの充足に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商業施設を利用しての買い物や馴染みの理美容室へ出掛けること等、感染症対策をしながら行っている。近隣の散歩や花見等の外出行事やご家族様との外出も感染状況の確認と対策を行いながら状況に応じて対応している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅から継続している馴染みの医師に依頼している。	全員がかかりつけ医受診であり、その中の6人は訪問診療である。通院に家族が付き添い、医師にバイタル表や生活状況を提供する。職員が付き添うことがある。訪問歯科が毎週、歯科衛生士が月1回訪問する。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働は行っておらず、入居者様に異変が見られた場合には、状態に応じて主治医や、ご家族様に報告・連絡・相談し、主治医の指示に従い通院等行っている。緊急時には救急搬送の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については双方サマリーを準備し、双方向良好な関係性が保てるよう支援する他、必要時等には電話連絡にて対応している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期介護に関しては導入しておらず、ご家族様へは現時点でできること・できないことをお伝えし、同意を得ながら支援している。	「施設入居中の危険性・容態急変に対する説明書」により、家族に説明している。状況の変化に応じて繰り返し話し合いをしており、重度化した場合、医師の説明を受け家族と相談し、医療を受けるか施設を変えるかホームの生活を続けるか相談する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備しているが全体として訓練まで行っていない。同法人事業所主催での救急救命講習に、可能な限り多くの職員が研修参加するようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震想定以外の訓練の他、水害や原発防災訓練も実施しているが、地域との協力体制を築くところには至っていない。	夜間想定を含め避難訓練を3回実施しており、消防署西分署の立ち合いもしている。「火元ドアは閉め火災区画遮断し、火元に近い人から優先的に避難」「避難確認後の部屋にプレートを置くは有効」等の講評があった。	避難訓練に地域住民が参加していない。「避難訓練時に一緒に参加し地域交流」や「法人の夜勤者の応援体制の検討」等の話が出ており、実現に向けた働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定と尊厳を大切にし、相手の立場に立ち、自尊心を傷つけないような対応を心掛けている。	「さん」付けで呼び、「友達として接して欲しい」の要望で「ちゃん」と呼んでいる人がいる。入浴で同性介助を望む人に応じている。トイレを失敗した人に「洋服変えに行きましょう」等、周囲に気付かれないよう居室に誘う。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様を主体と考え、普段の会話の中から希望・要望などを聞き、出来るだけ想いに添えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを大まかに決めており日々、入居者様の状況に合わせて時間が流れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみに関しても常に気を付け、乱れている場合はさりげなく声掛けを行い、必要時には促しや必要な個所の一部介助を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を提供したり、食事の準備は残存機能に合わせて、準備・調理・配膳・片付けと役割があり、協力して実施している。	献立は法人の管理栄養士が作り、食材は配食業者を利用している。ご飯とみそ汁は作る。誕生日はおやつにケーキで祝う。好みの食べ物は、おはぎやラーメン、焼きいもで、行事食に海鮮丼やちらし寿司を楽しむ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成しており、栄養バランスは保たれている。必要時には栄養補助食品を提供し、食事形態に関してもその方に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより自立または一部介助にて行って頂いており、口腔ケア物品の清潔にも務めている。またできる限り毎日、昼食前に口腔体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、排泄パターンの把握に努めている。誘導時間もご本人様の状況に合わせて行っている。	自立の人は7人で、他は声掛けトイレに誘導している。落ち着かない時等のトイレの合図を見逃さずトイレに誘う。夜間だけオムツの人が3人である。車イスでオムツだった人がトイレで排泄できるよう改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが困難な方は雇い付けの医師と相談し下剤を服薬して頂いているが、散歩や腹部マッサージ、水分を多めに摂取して頂き便秘の予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回は入浴出来る様、声掛けし対応に努めている。また入浴の気分がのらない場合は無理強いをせず翌日に入ってもらっている。	週2回入浴している。同性介助や湯温の希望に応じている。入浴を拒む人に自然な会話から「洋服着替えましょう」と誘う。入浴剤やゆず湯で香りを楽しむ。2人介助の人がいる。脱衣所はヒーターで暖かくしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごされている方がほとんどで、夜間帯は良眠されている。状況により日中も休める時間帯を確保し居室で過ごされている時間は、定期的に巡視し、掛物調整や室温にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援チェック表を用いて飲み忘れ防止を図っている。また薬剤の変更があった際にはケース記録と申し送りをし、薬剤表を個人ファイルにとじ、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の定着が難しい入居者様へのアプローチが課題となっている。嗜好品等の購入に関しては自ら選んで頂き、可能であれば精算も行っている。毎日の活動も好みの物を選んで行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩、状況に応じて馴染みの場所へドライブをしたりと感染対策をしながら外出を行っている。またご家族様にも協力して頂き、馴染みの雇い付け医への通院の依頼や、墓参りなどの家族行事で外出を行った。	天気のいい日は敷地内や周辺道路を車イスの人も散歩する。日用品の買い物に出掛けている。春に日和山の花見や秋の奥松島等にドライブする。日和大橋や渡波公園、津波復興祈念公園に出掛け、店で好きなものを食べる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金庫で保管管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合に電話をお貸ししたり、本人様が入居時に持参された携帯電話で自由にご家族様と連絡のやりとりをされている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や時間帯により照明・室温調整をしたり季節感のある装飾を行っている。	リビングに柿や栗の折り紙の貼り絵を飾っている。手作りのカレンダーがあり、見やすいところに時計がある。広い畑に出て、水遣りや草取りをし、収穫を楽しむ。ユニット間は通り抜けが出来、自由に交流出来る。入居者はリビングに集まり談笑し楽しく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は常に気の合う者同士で過ごせるよう配慮しているが、一人になれる場所がないため、一人になりたい場合には自室で過ごされている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に安心して頂けるよう馴染みの物や、使い慣れた物を持参して頂き使用している。	ベッドやチェスト、エアコン、カーテンが備え付けで、居室は掃き出し窓の南向きで明るい。家族の写真を飾り、椅子やテレビ等を持って来ている。位牌や遺影を持って来ている人もおり、自分の居室として使っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	管内はバリアフリーで廊下や浴室、トイレにも手すりがついている。歩行運動や体操も行い、状態を維持できるよう工夫している。		